

# 瀧谷山報

通巻177号  
[令和5年1月発行]



## 【今後の当山行事予定】

### 初不動大法会 1月28日



- 御本尊御開扉大護摩供  
【本堂】  
〈午前〉6時・10時・11時30分  
〈午後〉1時30分・3時



- 大般若經転読付大護摩供  
【本堂】  
午前11時30分



- 瀧不動堂護摩供  
【瀧不動堂】  
午前9時頃～午後3時頃  
(時刻は瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)

### 節分会 2月3日



- 開運福豆まき式【境内特設会場】  
第1回 第2回 第3回  
〈午前〉11時 〈午後〉0時 〈午後〉2時



- 節分会 厄除けのご祈祷  
【本堂】  
〈午前〉7時・9時30分・  
10時30分・11時30分  
〈午後〉1時30分・3時・5時



- 如意宝珠のお授げ  
【客殿内特設道場】  
午前9時～午後4時

### 花まつり 3月28日～4月8日

※行事予定は12月1日時点での予定です。今後、新型コロナウイルスの感染拡大等により変更する場合があります。  
詳しくは瀧谷山公式ホームページなどで随時ご案内いたしますので、ご確認ください。

#### ■日々のお護摩祈祷

- 迎春期間 … 〈午前〉7時・10時・11時30分  
(2月15日まで) 〈午後〉1時30分・3時
- 毎月28日 … 〈午前〉6時・10時・11時30分  
〈午後〉1時30分・3時
- 仏具磨きの日 … 午前7時  
(2月16日以降は平日午後のお護摩祈祷はございません)

#### ■交通安全祈願

午前9時より午後4時までの毎時0分・30分(30分毎)  
(毎月28日および1月31日～2月4日は交通安全祈願はございません)

#### ■仏具磨きの日のお知らせ

- 1月25日 ●2月25日 ●3月25日 ●4月25日

この日は仏具磨きの日ですので、お護摩祈祷は午前7時だけです。

令和5年1月発行  
通巻177号

●発行所：瀧谷不動明王寺  
〒584-0058 富田林市彼方 1762 電話 0721-34-0028 振替 00930-5-17704  
●発行人：荒谷純光 ●編集人：荒谷純栄



# 生死一如

一九二二年の秋、チエコスロヴァキアの作家カレル・チャベックは戯曲『マクロプロスの処方箋』を著した。今より百年前、時代は第一次世界大戦が終結し、国際連盟の発足やソビエト連邦の成立など変遷のうねり方が大きい。日本もまた大正時代を迎えて世相は激動、一九二三年には関東大震災が発生した。

そのように地球上が決して穏やかとは言えない頃に、その戯曲は発表された。

四幕から構成される作品のテーマは、人間の欲と不老不死にまつわる影である。何世代にもわたって相続争いをしている訴訟案件に、誰も知り得なかつた事実を披露する絶世の美女が登場する。しかし彼女は秘匿された不老不死の妙薬を服して、三百年以上も生き続けているのであった。やがて相続争いに関係する者たちによって彼女の正体が明かされ、彼女のみが持つ妙薬の処方箋を巡って喧々諤々の言い争いが交わされる。

ある者は言う。「皆に与えましよう！ 人類に！ 誰もがみ

な、生きる権利を持っている！ ああ、私たちの命の短いこと！ 何と短いことか、人間であるのがどうしてこんなに短いのか！」として万人に処方箋を開示する案。

またある者は、「いや。ただ力ある者だけだ。きわめて有能な者だけ。普通の貧乏人であれば、この儂い人生で十分足りない」をして特權階級に長寿権を与えると主張する。だが、恐るべき歳月を生き続けている美女は、その長寿がもたらす不幸をも知り尽くしている。こうしてそれぞれの欲望にからながらも、結局誰一人としてこの処方箋の受け取りを所望せず、むしろ頑なに拒絶するようになる。最後にうら若き娘の手によって処方箋は静かに燃やされてゆく。

不老不死に関する逸話は古今東西にあり、日本各地にも伝承説話が残されている。かの「竹取物語」の最後には、『かぐや姫』が不死の薬を入れた箱に手紙を添えて帝に献ずる場面がある。この妙薬と手紙を最も天に近き山頂にて燃やすことを帝は命じ、その山の名は「富士」（ふじ＝不死）と呼ばれた。

人間の欲求には、はるか昔から現代に至るまでさほどの違いは生じていないのではなかろうか。地位や財産に始まり、最たるは生存に関わる欲求に多くの人々は引き寄せられてきた。もちろん生きるという力はなんびとにとつても至高のものであり、その力からは無限の可能性がひろがつてゆくのである。ここに生という本質と表裏をなす死という本質が、私たちへの問い合わせとして立ち上がる。

「生と死」が意味するものは深遠で不可思議に他ならぬ。その深遠さに目覚めてゆく時に、欲求は止揚されてゆくことだろう。芸術や文化の中には止揚された「生と死」における追究が見てとれる。仏教ではこれを生死一如といいう表現で喝破している。

それに対して「生と死」の意味を直視せぬまま時をやり過ごし、肉体の衰えのみを憂える者にとって、若さは何物にも代えがたく、その漲る力がまばゆく映り、羨望と渴望が身を焦がす。その点において、現代社会にもまた「生と死」の意味を十分に問わず、いたずらに不老不死の力のみ

を求める世相も散見できる。チャベックの唱えた問題提起は百年後の今にも通じている。人の悩ましさとは誠に尽きぬものである。

人生百年時代が提唱されている。私たちの向かう先には何が待ち受けているのだろうか。人のあるべき姿とはいつたい何であろうか。この難題に向き合う意義は、人生が五十年であろうが百年であろうが一向に変わりはない。その心がまえをもつて今日一日を、ひと月を、この一年を、そして一生を送る。その心がまえを必ず支えてくれるのが三宝帰依の心であり、ほかならぬお不動様である。清々しい新年を迎え、この紙面をご覧になる方々の多幸を念じ、あらたな誓いを立てるような思いで巻頭のことばを綴る。

（付記・なお本稿に示した邦訳は『マクロプロスの処方箋』（阿部賢一訳、岩波文庫版）より引用した。読みやすい一篇であるのでお薦めをしたい。）

# 初不動

1月 28日

大般若經転讀付大護摩供 崩修

一年最初のご縁日である1月28日には初不動大法会が営まれます。当午前11時半からは、国家安穏・万民豊楽等を祈念する大般若經転讀付大護摩供がつとめられ、あわせてご信徒皆様のお願い事を祈願いたします。

また瀧不動堂では山伏たちにより護摩供がつとめられ、諸願成就を祈願しております。瀧不動堂では護摩供で焚く護摩木のお供えを受け付けており、お供えされた数に応じて御幣が授与されます。

初不動法会にご参拝いただき、一年始まりのご縁日にお不動さまとのご縁を深められますよう、ご案内申し上げます。



## 節分会

厄除大祈願祭  
2月 3日



### 節分会 開運福豆まき式

来る2月3日、瀧谷山では節分の開運福豆まき式を3年ぶりに執り行います。

節分の行事は宮中の厄除けの儀式「追儺」に由来するとされ、瀧谷山でもさまざまな行事が行われますが、年男・年女の方が華やかに豆をまく豆まき式は、そのハイライトとなります。

新型コロナウイルスの流行により、一昨年より中止しておりましたが、今年よりついに再開いたしました。当日はお誘い合わせの上、ぜひお参りください。



- 開運福豆まき式 2月3日(金)  
[第1回] 午前11時  
[第2回] 午後0時  
[第3回] 午後2時

### 【大般若經転讀付大護摩供】

- 法要時刻：午前11時30分
- 祈祷料：5000円より
- 【瀧不動堂護摩供】  
時間：午前9時頃～午後2時頃  
(詳細な時刻は瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)
- 護摩木：1本 300円  
(山伏による宝劍加持は休止としております)

## 節分会 厄除けのご祈祷

厄年は、災厄を受けやすく、肉体的・精神的・社会的な節目を迎える年齢です。瀧谷山では、厄年を無事に過ごし、健やかにより良い毎日をおつとめしております。節分当日は、特に盛大におつとめいたします。

厄除けは古来、旧暦で一年の節目である節分までにするものとされますが、瀧谷山では年中厄除けのご祈祷をおつとめしております。ご都合の合わない方は、時節にこだわらずお参りください。



### 如意宝珠のお授け

節分当日、意のままにあらゆる願いをかなえるとされる宝物「如意宝珠」のお授けをいたします。

弘法大師は、如意宝珠について「自然道理如來の分身なり」と述べられ、如意宝珠とは、限りない慈悲の心に満ちた如来のお身体そのものであると説かれています。弘法大師以来、如意宝珠は真言宗最極の秘物とされ、当山でも平素は秘して大切にお祀りしておりますが、皆様に如意宝珠の大きなご利益に与かっていただきたいという思いから、一年に一度のみ、節分会に皆様にお授けしております。

お授け後、如意宝珠守を授与いたします。財布などに入れ、肌身離さずお持ちください。

- 場所：客殿内特設道場
- 時間：午前9時～午後4時
- ご志納：1体 1000円以上

※新型コロナウイルス対策のため、如意宝珠に触れていたいただくことは出来ません。



如意宝珠のお授け

### ◆令和5年九曜星早見表(数字は数え年)

○木曜星	●月曜星	●計都星	●火曜星	○日曜星	●金曜星	○水曜星	○土曜星	●羅睺星
大吉	半吉	大凶	大凶	大吉	末吉	大吉	半吉	大凶
三碧	二黒	一白	九紫	八白	七赤	六白	五黄	四緑
9	8	7	6	5	4	3	2	1
18	17	16	15	14	13	12	11	10
27	26	25	24	23	22	21	20	19
36	35	34	33	32	31	30	29	28
45	44	43	42	41	40	39	38	37
54	53	52	51	50	49	48	47	46
63	62	61	60	59	58	57	56	55
72	71	70	69	68	67	66	65	64
81	80	79	78	77	76	75	74	73
90	89	88	87	86	85	84	83	82
99	98	97	96	95	94	93	92	91

厄年… ■■■ 前厄年・後厄年… ■■■■

なお本年より、星まつり祈祷料を40数年ぶりに改訂し、1名につき1000円とさせていただきます。ご寛恕のほどお願い申し上げます。



星まつりのお札

### 星まつり祈祷のご案内

瀧谷山では、一年の節目である節分の日、「星まつり」と称しまして人々の吉凶を左右する九曜星を供養し、災いを除き福を招くお預かり祈祷をおつとめしております。年齢や当星にかかるらず、同封の用紙にご記入いただき、一年を平穏無事に過ごし、運が開くよう願つてお申込みください。

- 締切：1月20日

※節分までにお札をご用意しますので、1月20日までに同封の用紙でお申し込みください。祈祷したお札は後日郵送いたします。

- 祈祷料：1名 1000円

※本堂は伝統建築のため、冬季は冷え込みます。お参りの方は、暖かい服装でお越しください。

- 祈祷時刻：12頁(裏表紙)記載
- 祈祷料：5000円より

### 厄年とは…

厄年は、星の巡り合わせが悪く、災厄を受けやすい年齢とされています。また、社会的な地位を持ち始める年齢に当たり、仕事で責任が重くなるなど、無理や負担がかから病気になりやすい年齢、結婚・出産・育児など生活の環境が大きく変化する年齢とも言われています。特に男性の42歳・女性の33歳は本厄と言われ、前後にひびく厄とされています。

### ◆令和5年厄年早見表(年齢は数え年)

男性		女性	
平成 11 年生まれ	25才	厄 年	19才
昭和 58 年生まれ	41才	前厄年	32才
昭和 57 年生まれ	42才	本厄年	33才
昭和 56 年生まれ	43才	後厄年	34才
昭和 38 年生まれ	61才	厄 年	37才
			昭和 62 年生まれ

## 開運福豆新春の縁起物ご案内

1月中旬より2月3日まで、お不動さまにお供えしました開運福豆を授与しております。福豆は、ご自宅にて小分け袋に入れ豆まきをされるほか、それに召し上がり飯・豆の酢漬け・豆カレーなど、芳ばしい豆の香りが季節を感じさせてくれます。

また迎春期間中（2月15日まで）、令和5年新春の縁起物を授与しております。熊手・矢守等の縁起物や、竈の神さまである荒神さまのお札、家中を守護してくださるお不動さまの護摩札など、縁起物を掛け替え、新しいお札に手を合わせると、新年を実感できるものです。どうぞ期間中にお受けください。

● 授与期間：1月中旬～2月3日

● 志納料：1袋 250円

● 【開運福豆】  
授与期間：2月15日まで  
主な授与品：

熊手・矢守・えとみくじ・護摩札・  
三宝荒神札等



開運福豆



新春の縁起物

● 日時：2月3日(金)
第1回 午前11時
(午前10時集合)
第2回 午後0時
(午前11時集合)
第3回 午後2時
(午後1時集合)
● 募集人数：各回 30名程度
※ 性別・年齢・生まれ年は問いません。
● 支具料(参加費)：2万円
● お問い合わせ：寺務所



2月3日の節分当日、瀧谷山では3年ぶりに開運福豆まき式を執り行います。つきましては、豆まき式にて豆をまいいて、ただく年男・年女の方を、次の通り募集いたします。当たり年に開わらざる応募ください。

なお今年より、支具料(参加費)を改定し、1名につき2万円とさせていただきます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。皆様にはぜひ豆まきにご参加いただき、大きな福をお持ち帰りいただきますよう、ご案内申し上げます。

## 【福豆まき式 参加者募集】



### 鼈負について

なのです。飾りとはいっても、ちゃんと阿形・吽形もあって西が阿、東側が吽になっています。亀は水に縁が深いので、火伏せの意味で取り付けてあるのだろうと思つておりました。ところがひょんなことから、これが解りました。

ワールドカップの日韓開催を記念して、また大阪歴史博物館の開館記念として、「韓国の名宝展」が三月から五月にかけて公開されていました。新羅の王の金冠や、日本の時代でいえば、貞觀<sup>1</sup>にあたるころの铸造の薬師如来像、高麗青磁など、国宝やそのクラスの名品などが展示されました。その青磁の作品の一つに、体は亀の形ではあるが頭が龍に作られたものがありました。その説明の文には「龍頭と亀身形に作られている。龍の九子の一つで重いものを載せて運ぶことを好んだ鼈負の身が亀に似ている」という説話に基づいていました。

この写真をご覧になって、この亀が瀧谷山のどこにあるか、知つておられる方は、だいぶ注意深くお参りされている方だと思います。この亀は本堂屋根の向拝<sup>2</sup>です。ただ亀とはいっても亀ともいきれないので、頭の形は、どうみても龍のよう

早速帰つて諸橋轍次の漢和大辞典を

ひいてみました。それには、

「①力を用ひるさま。③目をかけて引き立てる。ひいき。」の意味とともに、

書物。

1 西暦859年～877年。  
2 中国、明朝時代の文人、楊慎(西暦1488年～1559年)による

この写真をご覧になって、この亀が瀧谷山のどこにあるか、知つておられる方は、だいぶ注意深くお参りされている方だと思います。この亀は本堂屋根の向拝<sup>2</sup>です。ただ亀とはいっても亀ともいきれないので、頭の形は、どうみても龍のよう

この写真をご覧になつて、この亀が瀧谷山のどこにあるか、知つておられる方は、だいぶ注意深くお参りされている方だと思います。この亀は本堂屋根の向拝<sup>2</sup>です。ただ亀とはいっても亀ともいきれないので、頭の形は、どうみても龍のよう

のですが、頭の形は、どうみても龍のよう

## お寺のごはん

### 11 けんちん汁

冬も定まって温かいおつゆが恋しい季節になつてまいりました。けんちん汁はいかがでしようか？

近ごろは何でもネット検索とかで調べることができますので、「それは違います。」などとすぐに指摘を受けます。そこで一応「けんちん」について調べてみました。由来も具材も味付けも実に様々なんちん汁が載っています。お豆腐をいたるもの「けんちん」というとか、さらにお肉が入つたものもございました。

それはそれとして今回は「禅宗から伝わったお料理」とぐらんにおおくくりにとらえていただきて、今までこちらのお寺で作ってきたものを紹介させて頂きたいと思います。



材 料 ●大根 ●人参 ●小芋 ●油揚げ ●片栗粉 ●土生姜

●大根 人参はいちょう切りにいたします。

●子芋は皮をむいて5ミリくらいに輪切りにいたします。

●油揚げは3センチほどのながさの薄切りにいたします。

- 作り方
- お昆布のお出しに上の材料を全部いれて、柔らかくなるまで火をとおします。お野菜の下茹ではいたしません。せっかくのお野菜のうまみが抜けてしまいます。お味は薄口醤油のみで結構です。最後に片栗粉でとろみをつけます。
  - お椀に盛りつけたら、すりおろした土生姜を吸い口としてのせます。
  - 不思議なことに牛蒡やこんにゃくなどが入りますとおつゆのお味が一気に変わってしまいますので、ご注意を。

新年を迎えるころには、冬至よりもずいぶんと陽が長くなつたことが実感できるようになります。瀧谷山の境内は、ちょうど西に山があるため日暮れは少し早いのですが、向かいの三宝荒神堂に西日が射す様は美しく、日が沈んだ後の空の深い蒼は格別なのです。また朝はまだ薄暗いうちからツグミやシロハラの声が聞こえ、山の向うから白い光が射し込むとともにシジュウカラやエナガやメジロの群れが低木の枝を鳴きながら渡つてゆくのは、冬の風物詩と言えるでしょう。

お正月から節分までは行事が続き、山内はあわただしい季節です。ついつい日々のことにも追われ季節を忘れて過ごすことが多いのですが、夜にはたくさんの星座が見られるのも冬ならではの楽しみです。オリンピックや冬の大三角、おおいぬ座のシリウスなど、見つけやすい星があるのも嬉しいですね。そうして夜空を眺めるうちにだんだん暗闇に眼が慣れて、天の川がぼんやりと

二月にもなりますと、いよいよ光が新しく、立春というふさわしい陽気になつてきます。寒さでこわばつた心身をリセットするように、どうぞ山の空気を吸い込みにご参詣ください。



## 瀧谷山の四季③

新年を迎えるころには、冬至よりもずいぶんと陽が長くなつたことが実感できるようになります。瀧谷山の境内は、ちょうど西に山があるため日暮れは少し早いのですが、向かいの三宝荒神堂に西日が射す様は美しく、日が沈んだ後の空の深い蒼は格別なのです。また朝はまだ薄暗いうちからツグミやシロハラの声が聞こえ、山の向うから白い光が射し込むとともにシジュウカラやエナガやメジロの群れが低木の枝を鳴きながら渡つてゆくのは、冬の風物詩と言えるでしょう。

見えてきます。何かを感じ取るには、日常をリセットして、ゆっくりと感覚をストレッチしていくことも大切です。そうするうちに呼吸は深くなり、日頃の疲れもほぐれていきます。

## ～編集後記～

明けましておめでとうございます。今年も、瀧谷山報をよろしくお願ひいたします。

さて、瀧谷山報の編集は今回で18号目を迎えました。この新年号をもって、編集の担当を退かせていただくことになりました。途中、いったん交代してもらしながら、足かけ5年、編集を担当いたしました。

誌面のリニューアルもありましたが、やはり思い出深いのは特別号の製作です。瀧谷山報自体も、特別号によっていい意味で型を抜け出せたと思っています。

この先は、次の編集人がさらに瀧谷山報を深めてくれることでしょう。短い間でしたが、ありがとうございました。